

I. 令和4年度 熊取町の各教科の結果

令和4年度の教科に関する調査は、国語、算数・数学に加えて、4年ぶりに理科が実施された。

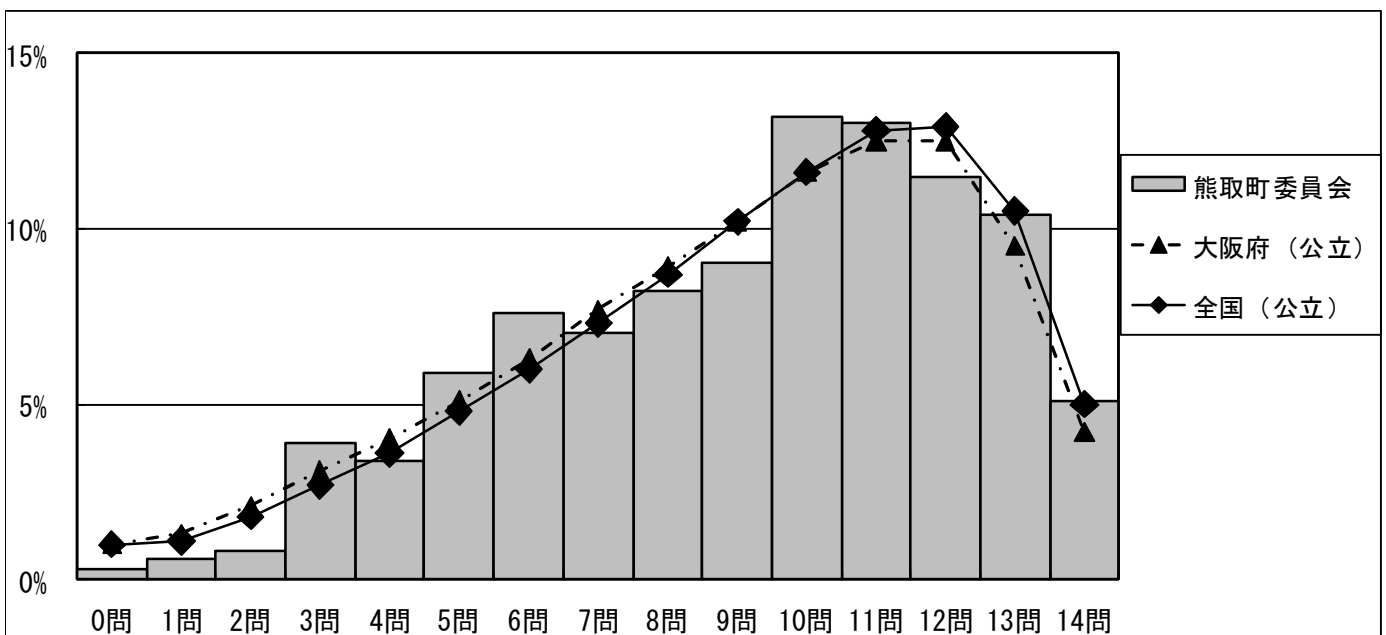
今回の調査結果から、これまでの調査で見られた課題について改善傾向が見られたものがある一方、「自分の考えを分かりやすく伝えるために工夫すること」や「根拠を明らかにしながら筋道を立てて説明すること」などに、依然として課題が見られた。また、理科においては、「実験や観察結果を分析し、解釈する」ことに課題が見られる。

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育活動における取組みの成果と課題を検証し、その改善を図っていく必要がある。

小学校及び中学校の調査結果は次のとおりである。

小学校 国語

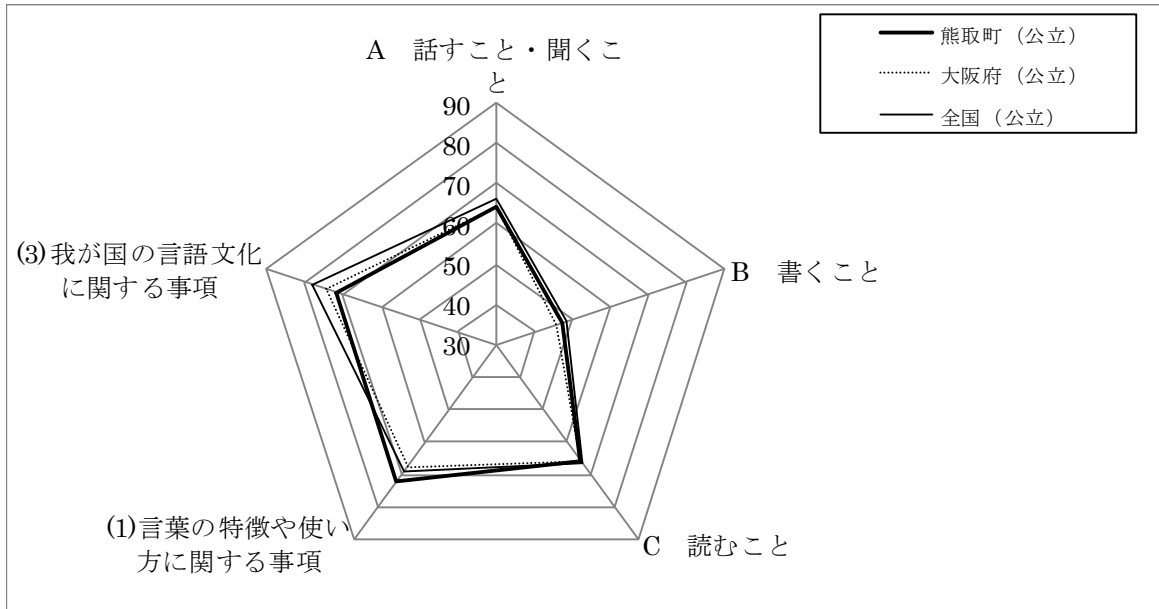
小学校国語正答数分布グラフ



- 熊取町の平均正答率は、全国平均・大阪府平均を上回る結果となった。
- 平均無解答率は、全国平均・大阪府平均より低かった。

学習指導要領の内容別平均正答率の状況

- 熊取町・大阪府・全国の差を明らかにするために、スケールの最小値を30%、最大値を90%とした。
- レーダーチャートの描くラインは、「我が国の言語文化に関する事項」が内側を描いているが、その他は全国・大阪府の状況と概ね同傾向を示している。

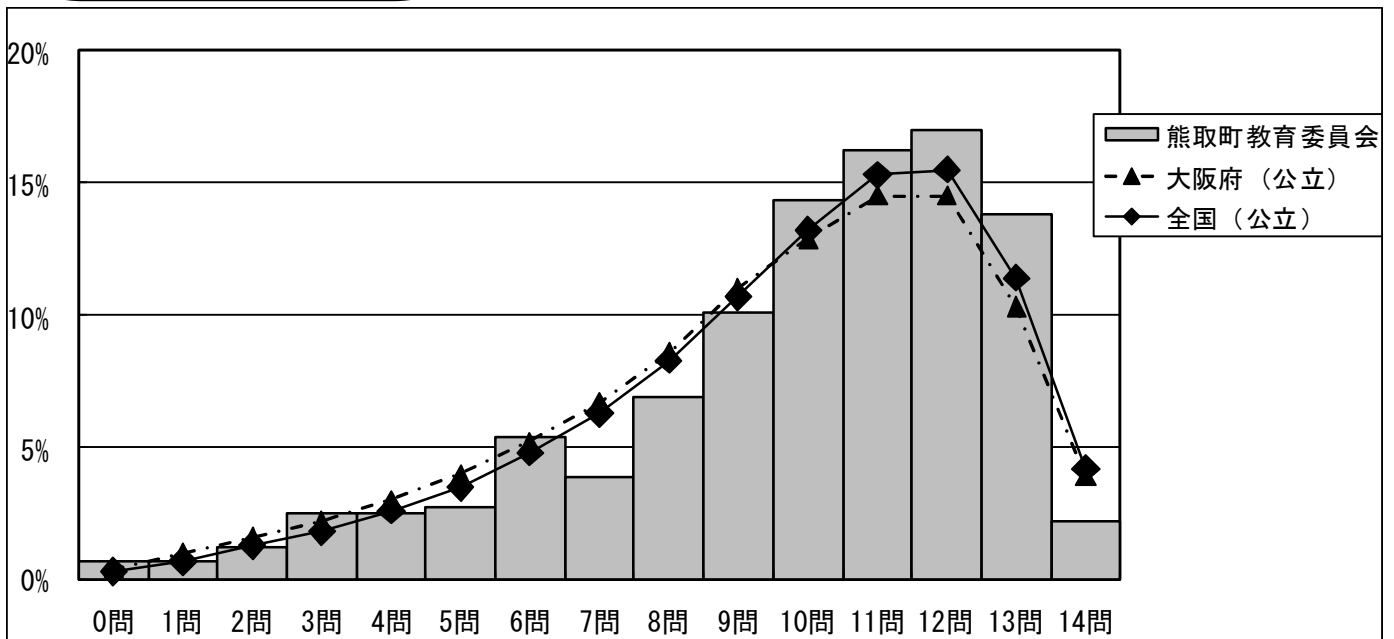


分類	区分	対象問題数 (問)	全国・大阪府との比較
	全体	14	全国・大阪府を上回っている
学習指導要領 の内容	言葉の特徴や使い方 に関する事項	5	全国・大阪府を上回っている
	我が国の言語文化に 関する事項	1	全国・大阪府を下回っている
	話すこと・ 聞くこと	2	全国・大阪府を下回っている
	書くこと	2	大阪府を上回り、全国を下回っている
	読むこと	4	全国・大阪府を下回っている

概ねできているもの	課題が見られるもの
<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉と書き言葉との違いを理解する ・言葉には、相手とのつながりを作る働きがあることを捉える ・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える ・登場人物の相互関係について、描写を基に捉える ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける ・表現の効果を考える ・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く

中学校 国語

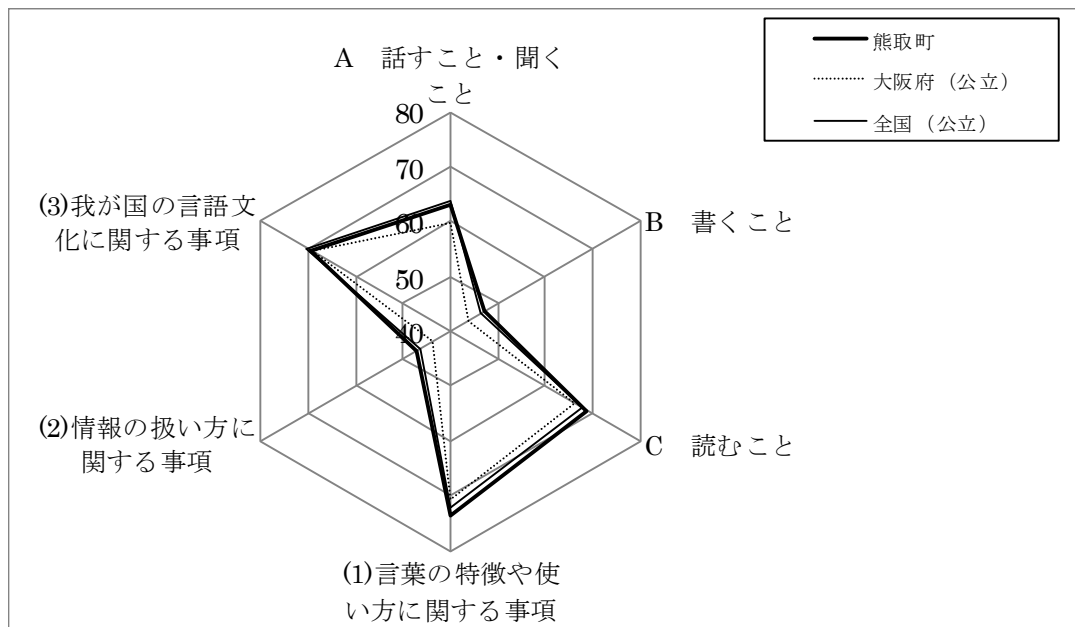
中学校国語正答数分布グラフ



- 熊取町の平均正答率は、全国平均・大阪府平均を上回る結果となった。
- 平均無解答率は、大阪府平均を下回り、全国平均をやや上回った。

学習指導要領の内容別平均正答率の状況

- 全国、大阪府、熊取町の差を明らかにするために、スケールの最小値を 40%、最大値を 80%とした。
- レーダーチャートの描くラインは、全国、大阪府の状況と概ね同傾向を示している。

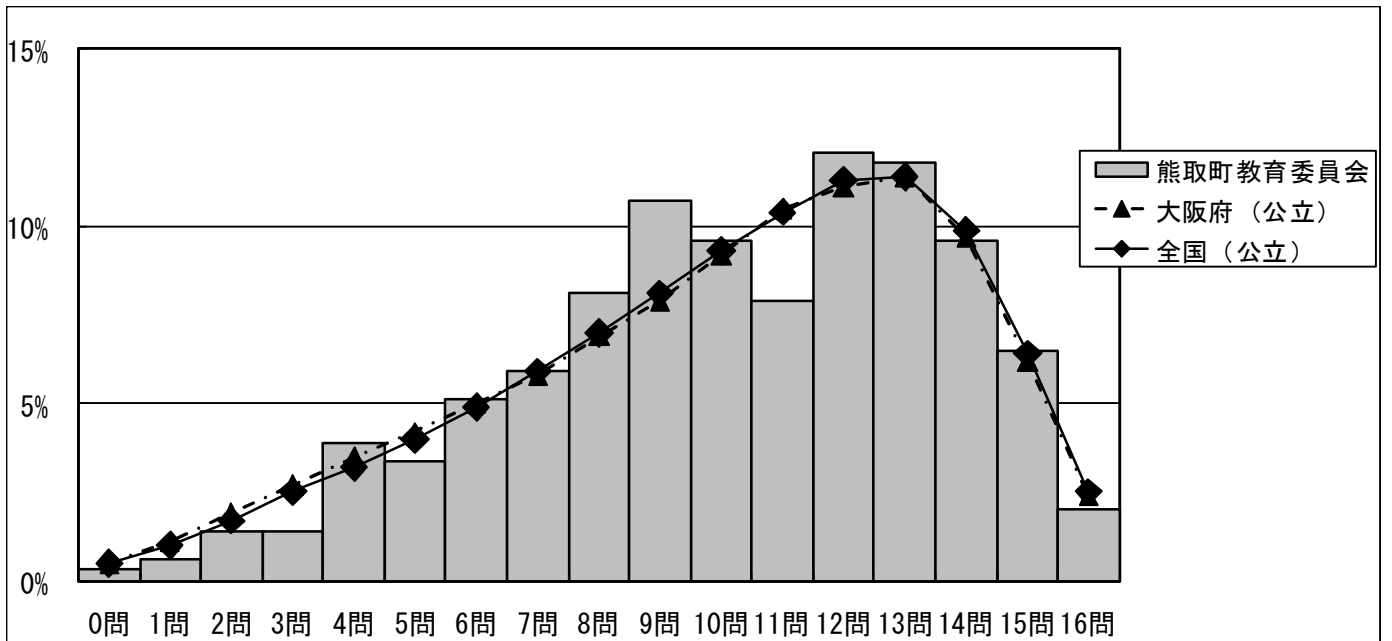


分類	区分	対象問題数 (問)	全国・大阪府との比較
	全体	14	全国・大阪府を上回っている
学習指導要領 の内容	言葉の特徴や使い方 に関する事項	6	全国・大阪府を上回っている
	情報の扱い方 に関する事項	1	全国・大阪府を上回っている
	我が国の言語文化 に関する事項	3	大阪府を上回り、全国を下回っている
	話すこと・ 聞くこと	3	大阪府を上回り、全国を下回っている
	書くこと	1	全国・大阪府を上回っている
	読むこと	2	全国・大阪府を上回っている

概ねできているもの	課題が見られるもの
<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する ・助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う ・文脈に即して漢字を正しく書く ・事象や行為、心情を表す語句について理解する ・場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する ・漢字の行書の読みやすい書き方について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く ・行書の特徴を理解する ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する

小学校 算数

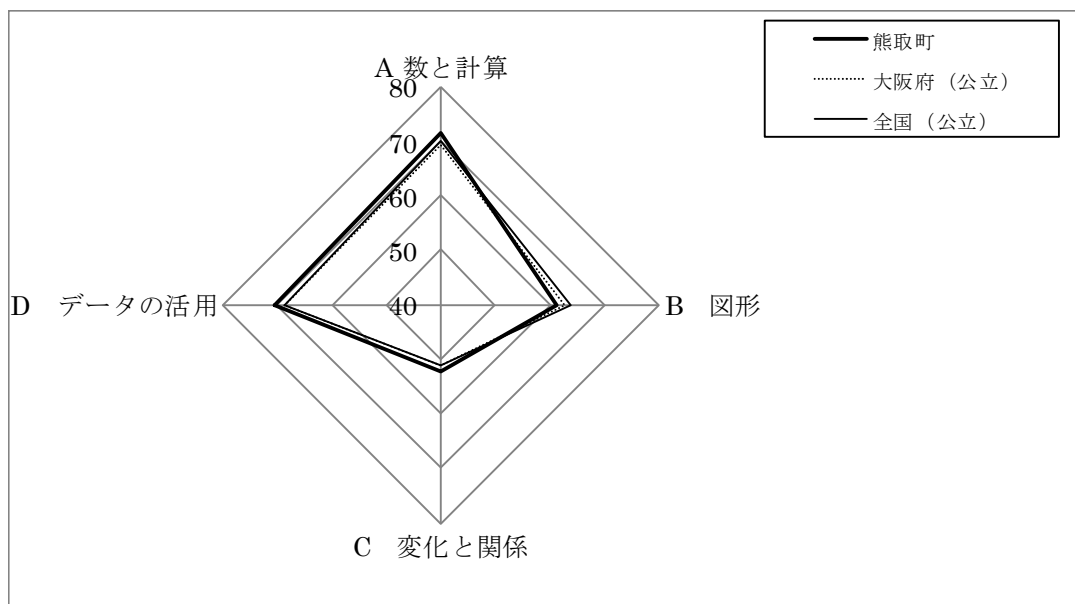
小学校算数正答数分布グラフ



- 熊取町の平均正答率は、全国平均をやや下回り、大阪府平均とほぼ同様であった。
- 平均無解答率は、全国平均・大阪府平均より低かった。

学習指導要領の領域別平均正答率の状況

- 熊取町、大阪府、全国の差を明らかにするために、スケールの最小値を40%、最大値を80%とした。
- レーダーチャートの描くラインは、全国、大阪府の状況と概ね同傾向を示している。

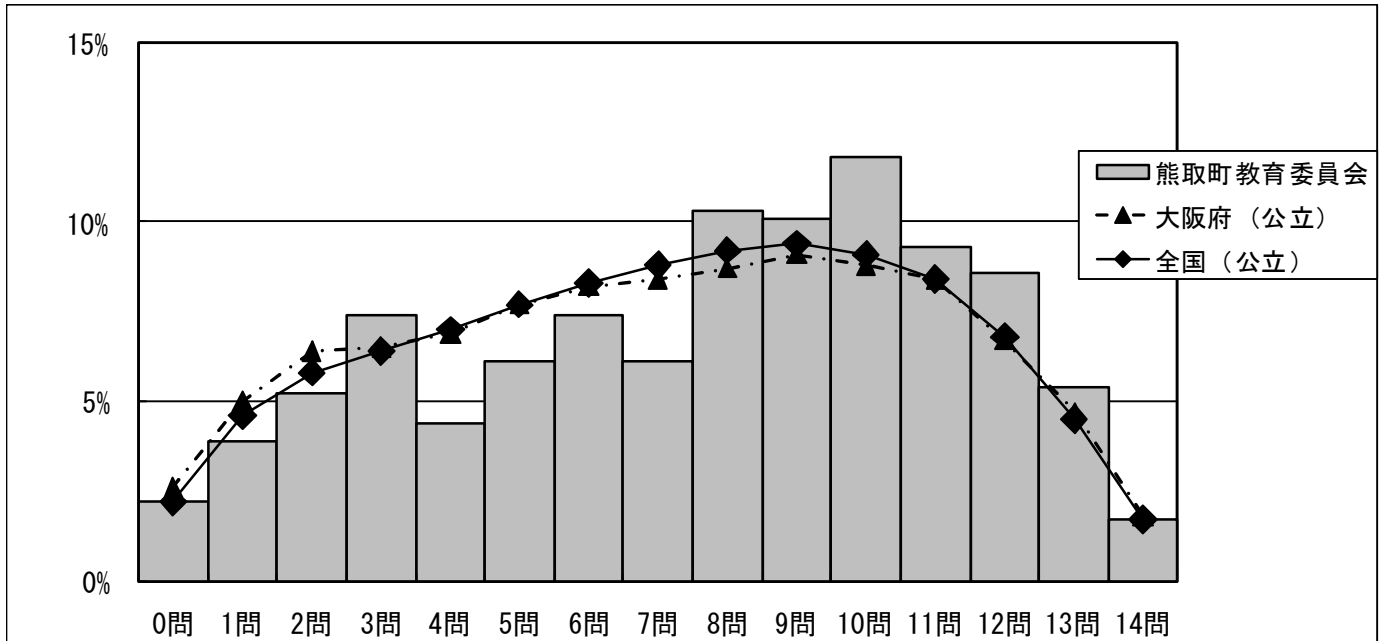


分類	区分	対象問題数 (問)	全国・大阪府との比較
全体		16	全国をやや下回り、大阪府とほぼ同じ
学習指導要領の 領域	数と計算	6	全国・大阪府を上回っている
	図形	4	全国・大阪府を下回っている
	変化と関係	4	全国・大阪府を上回っている
	データの活用	3	全国・大阪府を上回っている

概ねできているもの	課題が見られるもの
<ul style="list-style-type: none"> ・被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる ・示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる ・百分率で表された割合を分数で表すことができる ・表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる ・目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる ・加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる ・図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している 	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの数の最小公倍数を求めることができる ・示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる ・示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している ・伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる ・正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる

中学校 数学

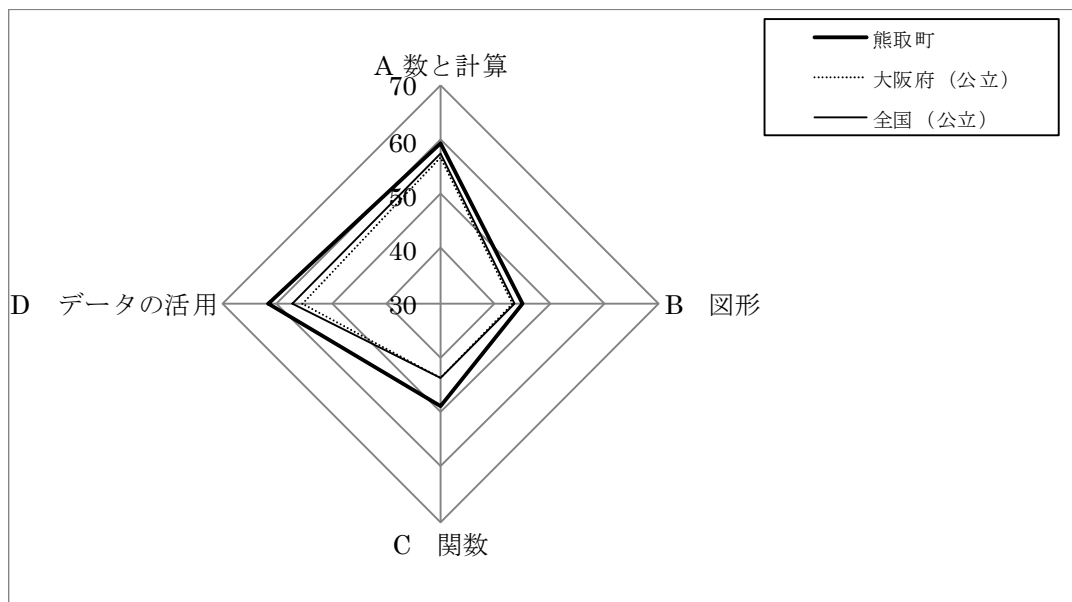
中学校数学正答数分布グラフ



- 熊取町の平均正答率は、全国平均、大阪府平均を上回る結果となった。
- 平均無解答率は、全国平均・大阪府平均より低かった。

学習指導要領の領域別平均正答率の状況

- 全国、大阪府、熊取町の差を明らかにするために、スケールの最小値を30%、最大値を70%とした。
- レーダーチャートの描くラインは、全国、大阪府の状況と概ね同傾向を示している。

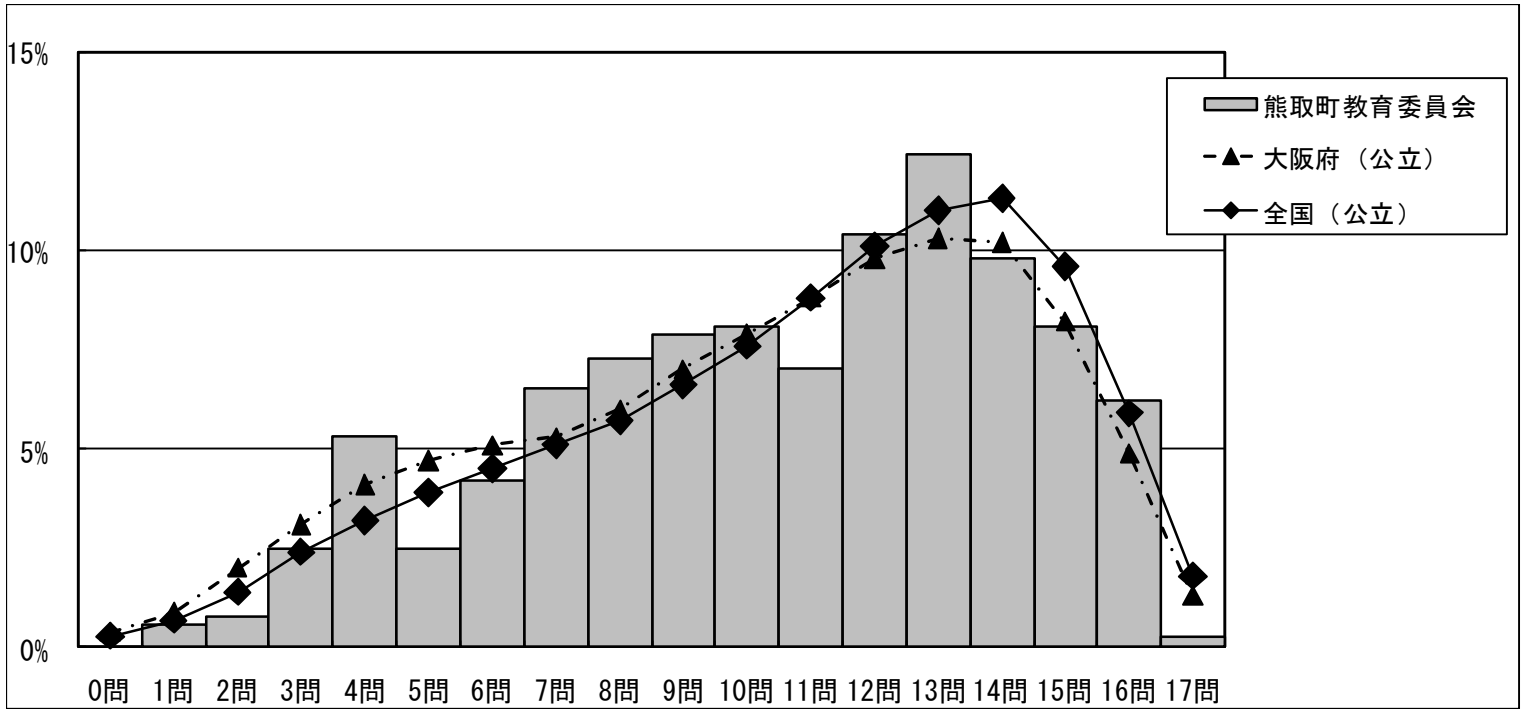


分類	区分	対象問題数 (問)	全国・大阪府との比較
	全体	14	全国・大阪府を上回っている
学習指導要領の 領域	数と式	5	全国・大阪府を上回っている
	図形	3	全国・大阪府を上回っている
	関数	3	全国・大阪府を上回っている
	データの活用	3	全国・大阪府を上回っている

概ねできているもの	課題が見られるもの
<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な連立二元一次方程式を解くことができる ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。 ・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している 	<ul style="list-style-type: none"> ・反例の意味を理解している ・一次関数の変化の割合の意味を理解している ・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる ・筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる

小学校 理科

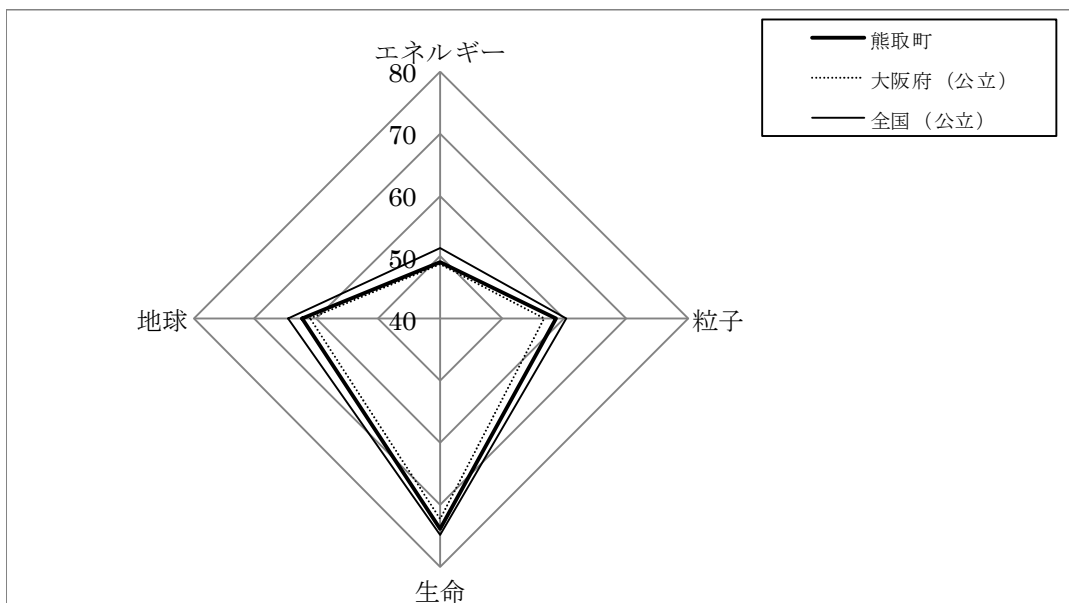
小学校理科正答数分布グラフ



- 熊取町の平均正答率は、全国平均を下回り、大阪府平均を上回る結果となった。
- 平均無解答率は、全国平均・大阪府平均より低かった。

学習指導要領の領域別平均正答率の状況

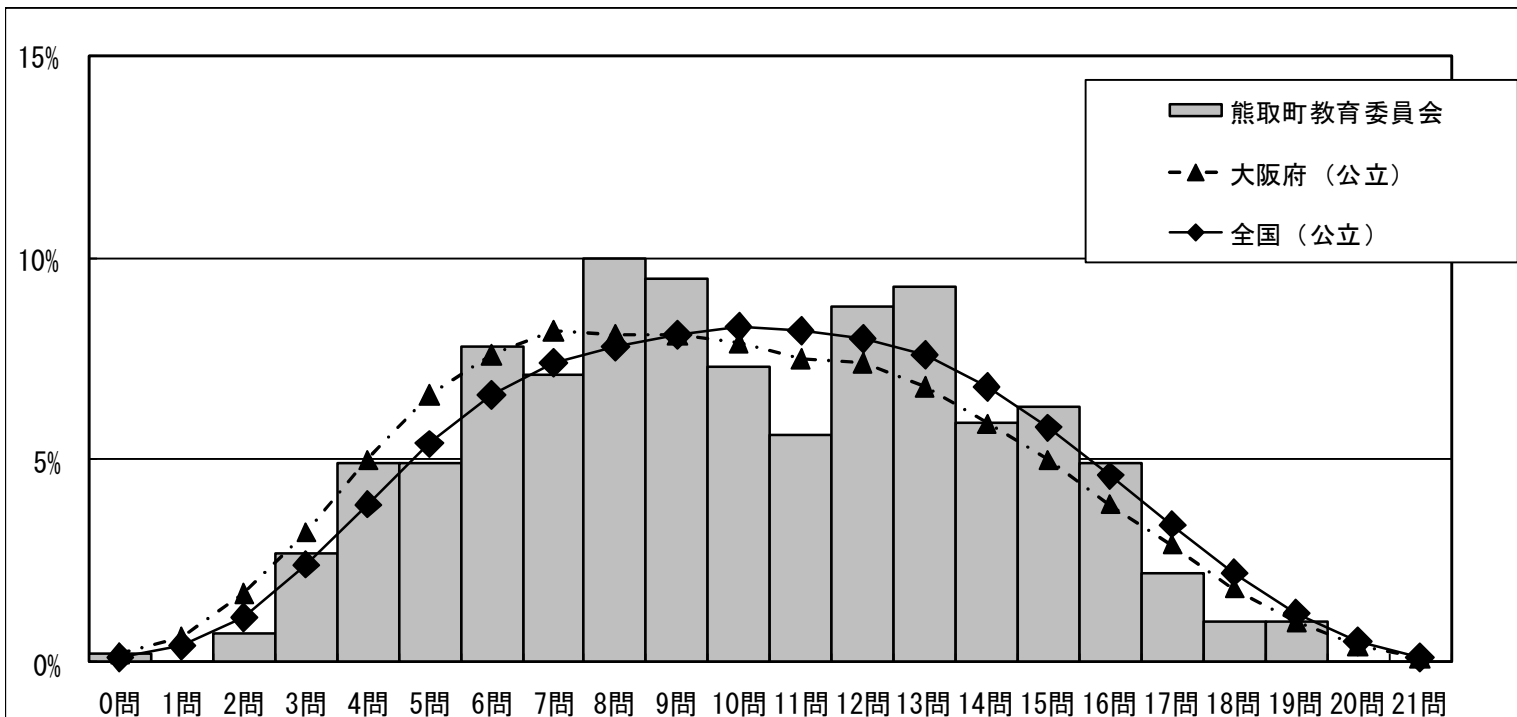
- 全国、大阪府、熊取町の差を明らかにするために、スケールの最小値を40%、最大値を80%とした。
- レーダーチャートの描くラインは、全国、大阪府の状況と概ね同傾向を示している。



分類	区分	対象問題数 (問)	全国・大阪府との比較
	全体	17	大阪府を上回り、全国を下回っている
学習指導要領の 区分・領域	A「エネルギー」を 柱とする領域	4	大阪府を上回り、全国を下回っている
	A「粒子」を柱と する領域	5	大阪府を上回り、全国を下回っている
	B「生命」を柱とす る領域	5	大阪府を上回り、全国を下回っている
	B「地球」を柱とす る領域	5	大阪府を上回り、全国を下回っている

概ねできているもの	課題が見られるもの
<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる ・昆虫の体のつくりを理解している ・メスシリンダーという器具を理解している ・メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている ・問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している ・観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる ・自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる ・日光は直進することを理解している ・実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる ・観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つことができる ・水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している

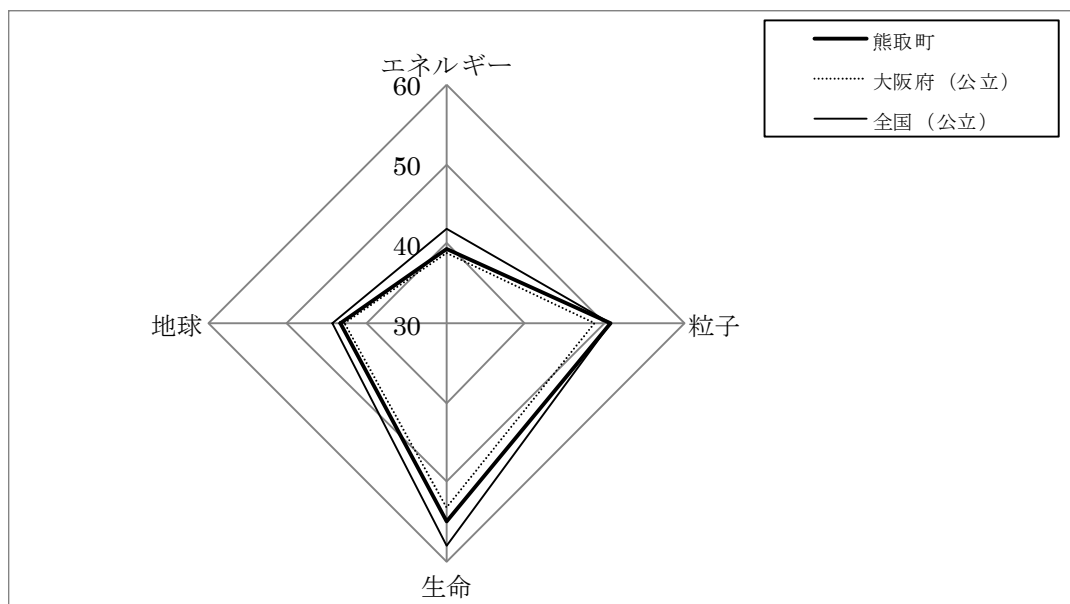
小学校理科正答数分布グラフ



- 熊取町の平均正答率は、全国平均を下回り、大阪府平均を上回る結果となった。
- 平均無解答率は、大阪府平均を下回り、全国平均をやや上回った。

学習指導要領の領域別平均正答率の状況

- 全国、大阪府、熊取町の差を明らかにするために、スケールの最小値を30%、最大値を60%とした。
- レーダーチャートの描くラインは、全国、大阪府の状況と概ね同傾向を示している。



分類	区分	対象問題数 (問)	全国・大阪府との比較
全体		21	大阪府を上回り、全国を下回っている
学習指導要領の 領域	「エネルギー」を 柱とする領域	6	大阪府を上回り、全国を下回っている
	「粒子」を柱と する領域	5	大阪府を上回り、全国とほぼ同じ
	「生命」を柱とす る領域	5	大阪府を上回り、全国を下回っている
	「地球」を柱とす る領域	6	大阪府を上回り、全国を下回っている

概ねできているもの	課題が見られるもの
<ul style="list-style-type: none"> ・モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計測できるかどうかをみる ・化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる ・節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる ・過去の大地の変動について、垂直方向の推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる ・飛行機雲の残り方を科学的に探求する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多角的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる ・化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる ・複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる ・力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる ・地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと震源のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる ・液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる ・予想や仮説と異なる結果がでる場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探求の方法について検討し、探求の過程の見通しをもつことができるかどうかをみる